

平成28年度

# 消費者教育フェスタ in 栃木

～学びを重ね、視野を広げる消費者教育の可能性～

 平成28年12月8日(木)

宇都宮大学教育学部附属中学校体育館  
(栃木県宇都宮市松原1-7-38)

## プログラム

- 10:20～ 実証研究の概要・授業の目的について  
10:40 佐々木和也氏 (宇都宮大学教育学部教授)
- 10:40～ 中学校技術・家庭科(家庭分野)での授業公開  
11:30 星野めぐみ氏 (宇都宮大学教育学部附属中学校教諭)
- 11:40～ 授業の振り返り・まとめ  
12:00 石渡美穂氏 (栃木県教育委員会学校教育課副主幹)
- 13:00～ 講演  
14:20 「衣生活からみた持続可能な消費」  
鈴木啓美氏 (フェアトレードカンパニー株式会社広報啓発担当)
- 14:25～ パネルディスカッション  
16:00 「学びを重ね、視野を広げる消費者教育の可能性」  
コーディネーター  
上村協子氏 (東京家政学院大学現代生活学部教授)
- パネリスト  
赤塚朋子氏 (宇都宮大学教育学部教授)  
石渡美穂氏 (栃木県教育委員会学校教育課副主幹)  
内田 守氏 (柏市教育委員会教育研究所長)  
水川和彦氏 (岐阜県教育委員会義務教育総括監)



# 教員に対する『衣』生活を通じた消費者教育の実践力の育成事業



佐々木 和也氏

宇都宮大学教育学部 教授

## 衣生活からみた持続可能性

私たちは毎日衣服を着ていますが、衣生活について深く考える機会はあまりないのではないかと思います。いったい私たちは、どんな衣生活ならば豊かといえるのでしょうか。量的なことも質的なこともあるかと思いますが、私たちが持っている衣服を家の中で広げると、どのような状況になるのでしょうか。

繊維産業は、バブル崩壊までは主に輸出産業でしたが、現在では完全に輸入に依存する形になっています。輸入依存が進行していく中、低価格でそこそこの質がという「ファストファッション」に満ちあふれた生活環境で私たちは衣生活を営んでいます。

輸入浸透率を見ると、数量ベースで97~98%となっています。100着の服があったら、98着はmade in Japanではないということになります。日本国内の繊維関連事業所数と従業員数は、圧倒的に衰退していています。しかし、日本のある企業ではグローバル化・多国籍化し、多くの外貨を獲得しているという状況もあります。

繊維、衣生活を考えるときは、すでに完全にグローバル化した社会の中で問題を把握し、自分たちの衣生活をしっかりと見据える能力を育成していかなければなりません。

## 衣生活と環境問題

衣生活が引き起こす環境問題を解決していかない限り、持続可能性を実現していくことは不可能です。生産段階から廃棄段階に至るまで、さまざまな問題が山積しています。

経産省のデータによると、繊維製品のリサイクル率は14%。日本アパレル産業協会のデータによると、衣料品の使用年数は約5年と算出できますが、ゴミは増え続け、使用年数はどんどん短くなっています。これが私たちの衣生活の現状です。

## 衣生活と環境問題

### 繊維生産に関する問題の例

農薬、塩害など(天然繊維)  
染色等による水質汚濁など  
過酷な労働、格差・貧困

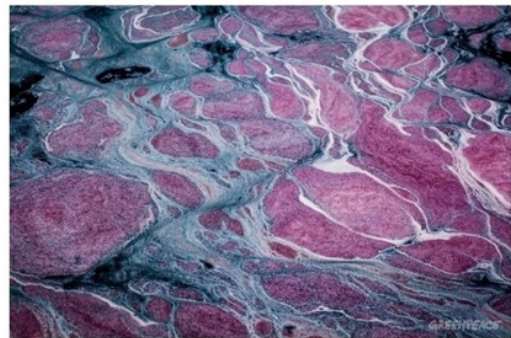
### 使用・洗濯に関する問題

死蔵問題  
界面活性剤等の環境負荷

### 繊維消費に関する問題

リサイクル・廃棄と資源・ごみ問題

## ジャバ島の河川



写真：国際環境NGOグリーンピース

私は繊維の町で育ったので、幼少期は毎日このような川を見ました。今、こうした状況が全地球的にどこかで起こっているということです。

衣服というのは膨大なエネルギーを使って生産されるものです。長く使わないということは、結局、地球の資源をたいへん無駄遣いしていることとなります。

衣服を作るのに使われる水の量をみてみましょう。一般的な洋食スタイルの朝食を食べると、1,400リットルの水を使います。一方、Tシャツとジーパンという夏の定番スタイルには、なんと1万リットルもの水が使われています。私たちは地球の資源を奪って豊かな衣生活を送っているということになります。その豊かさは「見かけ」かもしれませんが。

衣生活の環境問題を改善していくために、現在ではリサイクルをしたり、循環型社会や持続可能な消費のあり方を考える取組がされています。しかし、繊維分野に関しては、リサイクルが非常に難しい状況にあります。したがって、やはり入口である「消費」の部分で、消費者がスマートな賢い生活者となって正しい選択を行い、持続可能性が担保できる形に変えていかなければなりません。

## エシカル・ファッション ～持続可能な消費に向けて～

こうした背景を抱え、国としても持続可能な消費のあり方を模索し、担い手をどう育成していくのが消費者教育ということになります。

現状の学校教育では家庭科、社会科などで相互にリンクしながら取り組んでいますが、教育現場というのは決められた時間の中で新たな課題に対応していかなければならないという宿命を持っています。環境教育や消費者教育などの新しいトピックに速やかに対応しなければならないことは分かっていますが、なかなか十分な時間がない。そこで、環境教育や消費者教育は広く生涯教育と位置づけられているので、学校のみには依存するのではなく、子ども・大人・地域が一体となった教育環境を創造していく必要があります。

衣生活は、フェアトレード、オーガニック素材、地域が育んできた伝統文化の継承などを考えながらファッションを楽しむ「エシカルファッション」の形になっていく必要があります。アップサイクル・リサイクルしやすい素材、フェアトレードやオーガニックコットンなどの社会的アプローチの推進、伝統的な産業やその地域が育んできた衣生活を見直しながら、人、自然、社会が共生していける持続可能な消費を考えていくことが大事です。

## 受託研究概要と公開授業の目的

生産現場が見えづらい、不連続になっている状況がある衣生活を通して「とちぎ消費者教育推進研究会」は、教員養成における消費者教育に対し、各方面と連携してどのようなアプローチをしていくかを研究しています。衣生活から

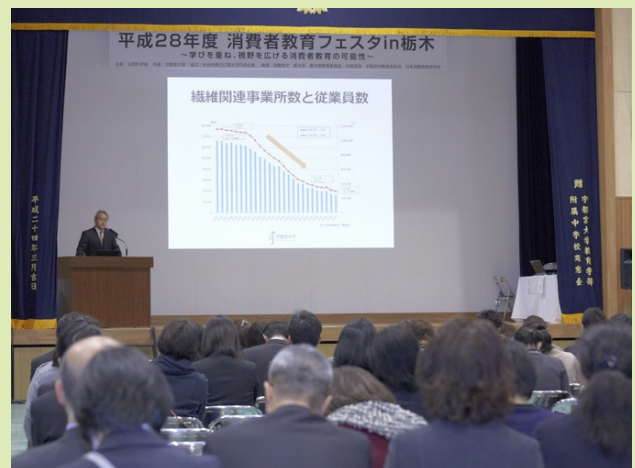
発達段階における消費行動目標の具体化

幼児期	小学生期	中学生期	高校生期	若者
自分の衣服に関心を持つ	靴下などの身につける小物を選択・管理しよう	Tシャツなどのライフサイクルに関心を持つ	フェアトレードやエシカルを意識しよう	エシカルファッションをリードしよう

見えてくるさまざまな問題を、実証研究を通じて改めて見据え、学校の授業でどんな実践ができるのか、そして学校現場を支える教員養成学部としてどんな教育をやっていけばいいのか、私たちは文部科学省の委託事業の支援を受けて研究しています。

今年度の成果の1つとして、衣生活における「発達段階をふまえた消費行動目標の具体化」を行いました。発達段階に応じて連続的に教育していく必要があるという認識のもと、上の図のような形で提案しました。本日はこの後、中学生期の公開授業があります。主題は「ライフサイクルに関心を持つ」で、その場しのぎではなくLCAの概念で視野を広げていく授業のあり方を構想しています。

また、今年度は発達段階に応じた授業研究の中に「地域の伝統文化を取り入れた取組」を展開しています。栃木県はユネスコ無形文化遺産にも登録された結城紬、真岡木綿、野州麻の伝統文化資源があり、絹・綿・麻の三大天然繊維の文化が継承されてきました。これらの地域資産を、環境教育や消費者教育を通してローカルに学ぶ視点が重要であると考えています。





## 1 題材名 「衣生活の自立～自分らしく快適に着るために～」 C 衣生活・住生活と自立（1）

### 2 題材の目標

- (1) 自分の衣生活に関心をもって学習活動に取り組み、学習したことを実生活に生かし、計画的に営もうとする。  
【生活や技術への関心・意欲・態度】
- (2) 自分の計画的な衣生活について課題をもち、環境にも配慮して、課題の解決を目指して工夫する。  
【生活を工夫し創造する能力】
- (3) 衣服の選択、着用、手入れについて基礎的・基本的な技術を身に付けることができる。  
【生活の技能】
- (4) 衣服の働きが分かり、T.P.O. に応じた選択、着用、手入れの方法及び衣服の計画的な活用の必要性について理解することができる。  
【生活や技術についての知識・理解】

### 3 題材について

本題材は、中学生として初めて家庭分野を学ぶ1年生が、家族に任せきりになっている自分の衣生活を見つめ、衣生活の自立へと目標をもって学習できるように、次のような点に留意し構成した。

- ・題材前半に自分の持っている衣服の状態を調べさせ、生徒一人ひとりに衣生活の課題をもたせる。
- ・衣服の働きの2時間目で、伝統的な衣装として和服にふれ、日本の衣生活の営みの素晴らしさについて考えさせる。
- ・生徒にとって身近な綿、ポリエステル、毛などの衣服材料について扱い、生徒自身の生活と密接に関わっていることを実感させる。
- ・生徒に課題をもたせ、解決させることで、衣生活を計画的に営むことの大切さを理解させる。また、そうすることが環境に配慮した生活につながることを理解させる。  
【環境教育の視点】
- ・生徒にとって、自分の衣生活を見つめる初めての機会となる。衣生活の営み方がよりよい消費生活を送ることにつながることを考えるきっかけとさせる。  
【消費者教育の視点】

### 4 指導計画（17時間扱い）

- |                        |              |
|------------------------|--------------|
| (1) 衣服の働きを考えよう         | 2時間          |
| (2) 自分らしい衣服をコーディネートしよう | 2時間          |
| (3) 衣服の手入れを身に付けよう      | 9時間          |
| ・衣服材料の特徴と手入れ           |              |
| ・衣服の洗濯と保管              |              |
| ・衣服の補修方法               |              |
| (4) 衣服を計画的に活用しよう       | 3時間(本時2/3時間) |
| (5) 資源や環境に配慮した衣生活を考えよう | 1時間          |



本時の授業風景

### 5 本時の指導

- (1) 小題材名 衣服を計画的に活用しよう
- (2) 目標 衣服の計画的な活用の必要性を理解できる。【生活や技術についての知識・理解】
- (3) 本時の指導方針

これまで生徒は、衣服の働きや衣服の材料の特徴、衣服の補修方法などを学習してきた。本時は、これまで家族に頼ることが多かった生徒が、ワードローブ調べや提示資料から自分の衣生活の課題に気付き、その課題を解決していく方法を考える学習を行う。この学習活動を通して、衣生活を計画的に営んでいく必要性に気付かせたい。また、ワードローブ調べから着用されていない衣服の多さに気付かせ、その解決策について生活する主体者として考えさせたい。

(4)本時の展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考
1 ワードローブ調べの結果から気付いたことを発表する。	5	・ワードローブを調べた時の様子を思い起こさせるとともに、ワードローブ調べの結果をグラフで示し、着ていない衣服の多さに気付かせる。	パワーポイント ワードローブ調べの結果 ワークシート 写真
2 提示された衣服の様子を見て、多くの衣服が着ていない状態になっている理由について考え、話し合う。	10	・生徒のワードローブ調べで挙げられた課題を取り上げた事例を提示し、自分の問題として捉えさせる。 ・提示したような状態だと日常生活で「衣服を見つけるのに時間がかかる」、「着ようとしたとき着られない」というような不都合が起こることに気付かせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>提示する写真の様子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイズが合わない (小さくなってしまった)</li> <li>・しみが残ったままになっている</li> <li>・衣服がタンスに入りきらない</li> <li>・買っても着ていない服がある</li> </ul> </div>			
3 提示された課題の解決策をグループで考え、カードにまとめ、発表する。	15	・これまで学習した衣服の手入れや補修などについて思い起こさせ、日常生活の中で自分で行える解決策を考えさせる。 ・無駄を省き、手持ちの衣服の十分な活用を図れるように、衣服の購入、使用、処分などの場面ごとに改善策を考えさせる。	カード
4 自分のワードローブ調べの用紙にも、提示された事例と同じような課題がないか点検し、解決策を考える。	12	・着ない衣服を少なくするために自分でできる解決策を考えさせる。 ・衣生活の課題を解決することが、衣服を長持ちさせ計画的に衣生活を営むことにつながることに気付かせる。	
5 これからの生活で何ができるか考え、ワークシートに記入する。	5	・これまでの学習から実生活に生かしていきたいことをまとめさせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇自分のワードローブ調べや提示された事例から見付けた衣生活の課題に対する解決策を考えることを通して、計画的な衣生活を送る必要性を理解している。</p> </div>			
6 本時の振り返りを行う。	3	・本時を振り返るとともに、次時は実際に解決に向けての実践計画を立てることを予告する。	

(5)評価

[評価規準] 自分のワードローブ調べや提示された事例から見付けた衣生活の課題に対する解決策を考えることを通して、計画的な衣生活の必要性を理解している。 【生活や技術についての知識・理解】

[評価方法] 観察・ワークシート

おおむね満足できる状況	ワードローブ調べや提示された事例を基に、着ない服を少なくすることから計画的な衣生活を送る必要性を記入している。
十分満足できる状況	ワードローブ調べや提示された事例を基に、購入から処分までを一連の流れで捉えて、計画的な衣生活を送る必要性を記入している。
おおむね満足な状況に達していない生徒への手だて	ワードローブ調べの結果を見直すことで、衣服を着なくなった理由を思い起こさせる。

生徒が作成した「ワードローブ調べ」の例

1 2 3 4  
理由  
Tシャツ  
綿 黄色

着用頻度 1..気に入って良く着ている 2..着ている 3..あまり着ていない 4..着ていない  
理由を書く

アイテム Tシャツ シャツ トレーナー パンツ スカート ハーフパンツ ジーパン  
特徴(柄・素材・色など)

<p>細い白と紺色のストライプ ① ② ③ ④ 理由 他の服と合わせやすい 着やすい どうする</p> <p>綿・ナイロン</p>	<p>緑のカーディガン 小さいボタンの ① ② ③ ④ 理由 着こごちが長い ボタンのかわいさ どうする</p> <p>綿・ポリエステル</p>	<p>赤のカーディガン リボン付き ① ② ③ ④ 理由 生地が厚くてあったかい どうする</p> <p>ウール</p>	<p>水色のカーディガン ① ② ③ ④ 理由 あたたかさが生地が固く着づらい 下にやわらかいものを着る どうする</p> <p>ウール ナイロン</p>
<p>紺色のラズベリーカーディガン ① ② ③ ④ 理由 ワンピースと合わせやすい どうする</p> <p>アクリル 綿</p>	<p>青と白のハートのレースリボン付き ① ② ③ ④ 理由 サイズが小さくなってしまった 後輩にあげる どうする</p> <p>ポリエステル 綿</p>	<p>花柄のTシャツ ① ② ③ ④ 理由 かわいさ 動きやすい・細身 どうする</p> <p>ポリエステル 綿</p>	<p>青と白のボタンのTシャツ ① ② ③ ④ 理由 少しだけ長い生地がかわいさ どうする</p> <p>綿</p>
<p>青と白のボタンのTシャツ ① ② ③ ④ 理由 小さくなってしまった たけが短い 親せきにあげる どうする</p> <p>綿</p>	<p>グレーのポロシャツ ① ② ③ ④ 理由 かわいさ 細身 どうする</p>	<p>青のカーディガン ① ② ③ ④ 理由 サイズが小さく着れない やすみもいなくて捨てる どうする</p> <p>アクリル ナイロン</p>	<p>暗い赤のTシャツ ① ② ③ ④ 理由 あまり好きじゃない どうする 着る人もいない 捨てる</p>
<p>レギンス ① ② ③ ④ 理由 毎日服と合わせるため どうする</p> <p>綿・ポリウレタン</p>	<p>レギンス ① ② ③ ④ 理由 他の服と合わせづらい よく考えてから買う どうする</p>	<p>短いレギンス ① ② ③ ④ 理由 あまり足を出したくないから どうする</p> <p>綿・ポリウレタン</p>	<p>ハットエのジーンズ ① ② ③ ④ 理由 細身が嫌い 動きやすい どうする</p> <p>ナイロン ポリウレタン</p>
<p>ハットエのジーンズ ① ② ③ ④ 理由 思ったよりも寒い 小さい よく考えてから買う どうする</p>	<p>細身のスポン ① ② ③ ④ 理由 細身と重さから好きじゃない よく考えてから買う どうする</p> <p>綿 ポリウレタン</p>	<p>薄いビロウのスポン ① ② ③ ④ 理由 好きじゃない よく考えてから買う どうする</p>	<p>① ② ③ ④ 理由 好きじゃない よく考えてから買う どうする</p> <p>エナメルド ナイロンの スポン</p>
<p>グレーのキュロット ① ② ③ ④ 理由 動きやすい かわいさ どうする</p> <p>ポリエステル 綿</p>	<p>青のレースのキュロット ① ② ③ ④ 理由 固い かわいさ どうする</p> <p>綿・ポリエステル</p>	<p>水色のキュロット ① ② ③ ④ 理由 少しミカパンに似ている もう一度よく洗ってみる どうする</p> <p>ポリエステル ポリウレタン</p>	<p>青と白のストライプのキュロット ① ② ③ ④ 理由 動きやすい どうする</p> <p>ポリエステル 綿</p>
<p>紺色のキュロット ① ② ③ ④ 理由 たけが短い 固い 親せきにあげる どうする</p> <p>麻・綿</p>	<p>黒とグレーの縞のスカート ① ② ③ ④ 理由 冬はすきで着る 冬に積極的に着る どうする</p> <p>綿 ポリエステル</p>	<p>グレーのスカート ① ② ③ ④ 理由 生地が汚れる 着るほどに着る どうする</p> <p>綿</p>	<p>紺色のスカート ① ② ③ ④ 理由 かわいさ たけが短い どうする</p> <p>綿・ポリウレタン</p>

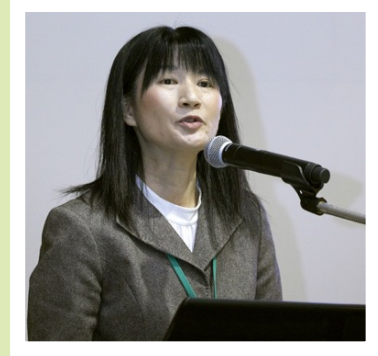
1につけた枚数	2につけた枚数	3につけた枚数	4につけた枚数	全枚数 (1+2+3+4)
9 枚	10 枚	8 枚	14 枚	41 枚
22 %	24 %	20 %	34 %	100 %



どの色も多くあったが、あまり好きではなくて着ていないものが多かったため、買うときにもっとよく考えてから買ってみたいと思った。また、着る時と場所を考えて着れば、着られるものもあったので積極的に利用していこうと思う。



# 学びを広げ、 実践への意欲を高める工夫が 施された意義ある授業



石渡 美穂氏

栃木県教育委員会学校教育課 副主幹

## 授業意図の解説

小学校家庭科と、中学校技術・家庭科の家庭分野では下図の内容を学習します。小学校から中学校への学習の連続性を重視し、内容構成はA～Dの同一の枠組みになっています。これらは学習指導要領で定められており、学校が独自に学習内容を変えることはできません。ただ、家庭科・家庭分野の特徴として、何年生で何を学ぶかについては決められていません。

これらの内容を小学校では5・6年生の2年間、中学校では3年間で、子どもの実態、学校の実情に応じて学校が考えた年間指導計画に従って学習を進めます。さきほどの公開授業では1年生で実施していました。

家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における消費者教育	
内容項目一覧	
小学校	中学校
A 家庭生活と家族	A 家族・家庭と子どもの成長
B 日常の食事と調理の基礎	B 食生活と自立
C 快適な衣服と住まい	C 衣生活・住生活と自立
D 身近な消費生活と環境	D 身近な消費生活と環境

家庭科で消費者教育の中心となるのは、小・中学校ともに内容D「身近な消費生活と環境」ですが、公開授業は、「C(1)衣服の選択と手入れ イ衣服の計画的な活用の必要性を理解し、適切な選択ができること」の内容でした。

このように、「衣服の選択」では、今日の授業のように環境や消費にかかわる内容を学習します。つまり、家庭科で行っている消費者教育は、契約や悪徳商法、消費者の権利だけでなく、衣生活や食生活など生活の営みの中でのものを無駄にしないこと、長く大切に使うことなどを考えていけるようにすることを大切にしています。自分の生活が環境に与

える影響を考え、環境に配慮した生活を送ることの大切さ、必要性、それを実現する知識や技能を学ぶことになります。

## 題材・学習の流れ

本日の授業は「衣服の活用：衣服の過不足や処分を考えることを通して、計画的な活用の必要性について理解できるようにする」ことを目的としています。

題材「衣生活の自立～自分らしく快適に着るために～」		
時間	小 題 材 名	主 な 学 習 内 容
1・2	衣服の働きを考えよう	・ 社会生活上の働き ・ 和服から考える衣文化
3・4	自分らしい衣服をコーディネートしよう	・ 色や形の調和 ・ 自分らしさを考えた着方
5～13	衣服の手入れを身に付けよう	・ 衣服材料の特徴と手入れ ・ 衣服の洗濯と保管 ・ 衣服の補修方法
14～16	衣服を計画的に活用しよう	・ ワードローブ点検(衣服の過不足) ・ 計画的な入手と処分の必要性 ・ 衣生活の改善 実践計画
17	資源や環境に配慮した衣生活を考えよう	・ 自分の衣生活が社会に与える影響

学習の流れを考えるのは、各学校の先生です。附属中学校では本題材を17時間で進めることになっていて、そのうちの14～16時間目「衣服を計画的に活用しよう」の15時間目が本時「計画的な入手と処分の必要性」でした。ですから生徒たちは、今日の授業の前までに「自分らしい衣服をコーディネートしよう」「衣服の手入れを身に付けよう」を学習してきました。色や形の調和、自分らしさを考えた着方、衣服の手入れ(衣服材料の特徴と手入れ、洗濯と保管、補修方法)の学習です。そのため、本で行った「着用頻度の低い衣服に着目して解決策を考える活動」に、これまで学習してきた知識や技能が活かされていました。

今日、子どもたちが導き出した解決策のほとんどは、中学生である自分ができる解決策となっていました。中学校の家庭分野では生活の自立を目指していますので、このあたりも大切なポイントです。

このあと、16時間目には解決策をもとに実際に自分の衣

服の改善を実践する計画を考える授業を行います。このように、学校での学びを家庭生活につなぐことが家庭科の大きな目的になっています。

そのため、今日の授業で生徒一人ひとりが自分の衣生活を教材(ワードローブ調べ)として学習を進められていたことも実は大きな意味がありました。学びを広げ、実践への意欲を高める工夫がされていた授業でした。自分の生活で実践が図られる大切さを考えると、消費者教育としてもたいへん意義のあるものだったと考えています。

## 授業の振り返り

### (1) 目標

衣服の計画的な活用の必要性を理解できることを目標としています。

- 自分の衣生活を見つめさせ、あまり着用していない衣服の多さに気づかせる。
- 学んだことを活かすことで、着用していない衣服を減らすことができることに気づかせる。
- 環境に配慮し衣服の計画的な活用を図る必要性に気づかせる。

以上のことを目的に、次のような活動を行いました。

### (2) 学習活動の流れ

- ①各自が行ってきたワードローブ調べから気づいたことを確認。そこから、着用していない衣服の多さに目を向けさせ、そのままよいのかを考えさせます。
- ②生徒たちは先生のタンス、衣服の状況の事例を共通の課題として、着ていない衣服がたくさんあることで生じる問題について考え、着ていない衣服や着られない衣服は少

### ワークシートの記述例 -1

- あまり着ていないTシャツ：合わせる服がない。だから合わせられる服を購入してどちらの活用度も上げることが考えた。
- 着ていないキャミソール：派手だから着たくない。でも、この授業を通してやっぱりもったいないと感じて、上に地味なものを羽織れば活用できるんじゃないかと考えた。
- あまり着ていないスカート：真っ白で汚したくないためなかなか着られない。でも、そのままにしておくのはそれこそもったいないので、着る場面を考えて着ていこうと考えた。
- 着ていないスカート：丈が長すぎる。裾を上げて着ることを考えた。



授業公開の様子

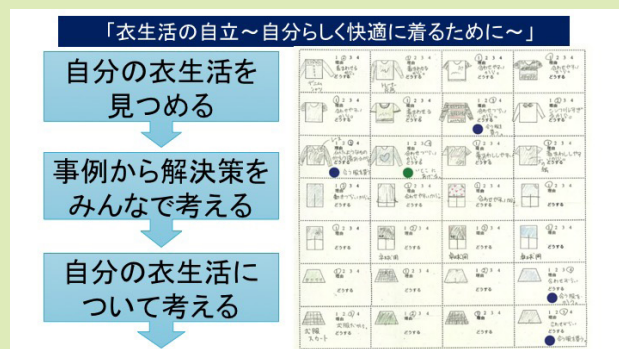
ないほうが良いことに気づきました。そして、着ていない衣服の活用の仕方、活用度を上げる工夫を考えていきました。着ていない衣服を減らすには、いろいろな解決策があることを友達と意見を交流しながら学びました。解決策には、これまでの「着用の工夫」、「補修や手入れ」、「処分の方法」などの学習を活かしている様子がみられました。

次に、ワードローブ点検表をもとに自分の衣生活について考えていきました。数多くの解決策が黒板に示され、自分の衣服の状況に照らして、しっかりと自分の生活につなげて考えられていました(ワークシートの記述例 -1)。

本日の授業で、子どもたちは、例えば廃棄と書くことに躊躇したり、「着ていないけれど思い出があってあげたくないんだよね」と話したり、「透けるから着ていない」服について「試着しないと透けるかどうか分からないよね」と話したりするなど、この活動を通して自分の衣生活についていろいろ考えを巡らせている様子がありました。

③最後に、気づいたこと、考えたことをまとめました。

自分→事例からみんなで→自分について考えるという、少しまどろっこしいと思えるような流れが、小中学生にはとても大切です。このような流れをとることで、自分の衣生活について自信を持って作業を進められるようになります。なかなか思いつかない子どもでも、友達の意見を活かして自分につなげることができます。そのような工夫がされていた授業でした。





### (3)「自分の衣生活を考える場面」について

今日は「自分の手持ちの衣服の活用」について考えましたが、そうすると「使用」と「処分」の場面を多く考えることが思考の自然な流れになり、なかなか「購入」の方向へは行かない仕組みになっていました。つまり、衣服の入手(購入)については、「これを着ていないが、こういう服があれば活用できる」という着用を工夫する考え方の延長で考えていたということです。あまりそこから購入の場面が広がらない活動です。それは星野先生も十分理解されていました。ただ、この後、この活動がすごく生きてくるということが分かりました。

つまり、生徒たちは着用の工夫、手入れ、補修といった既修の内容に加えて、よりよい衣服管理を行い衣生活を改善するためには、衣服の購入・入手から考えなければならないということ(ワークシートの記述例-2の下線部)に気づいていたのです。本時の学習活動によって生徒たちは、衣服を長く大切に使う、衣服を無駄なく買うなど、衣服の計画的な活用の必要性を理解できたということになります。

家庭科・家庭分野では、消費者としての意識を高める学習を丁寧に進めています。家庭科は消費者教育の視点において、とても大切な役割を果たしているのではないかと考えます。

### ワークシートの記述例 -2

- 売ったりしなくても、自分で手入れをしたり、合わせる服を変えてみることで見え方が変わり、着てみようと思えるようになることに気づいた。
- 気に入って着ているものが多いから、手入れをきちんとすると長く着られるんだなと思った。
- 少し補修をすれば着られるものがあることに気づいた。
- 合わせる服がなくて着ていない服が何枚かあったので、その服だけを見て買うのではなく、どんな服と合わせられるかを考えて買おうと思った。
- 衝動買いしてしまうから、合わせにくい服ばかりになるので、これからは少し考えて買おうと思った。



## 衣生活からみた持続可能な消費 ～フェアトレード&オーガニックでできること～

鈴木 啓美氏

ピープルツリー（フェアトレードカンパニー株式会社）  
広報啓発担当

### 私とファッション

最初に講演のお話をいただいたとき、とても堅いテーマだと思いました。けれど、私は一般企業の会社員でありごく普通の生活人ですので、その観点からお話できればと思いました。

私は、いわゆる「流行」はよく分からないのですが、60～70年代の古着や民族衣装(着物も含む)が大好きです。また、洋裁、編み物など手作りするのも好きで、リメイク学校に通い、技術を身に付けました。洋服は自分を表現するものとしてデザインに目が行きがちですが、数年前に疲れから蕁麻疹が頻発したことがあり、着心地を重視するようになりました。

みなさんは、今着ている洋服をどこで買いましたか？私の着ている服は、インドで手織りしたコットンとウールの生地に職人さんが刷毛で1本1本、線を描いたものです。

みなさんが着ている洋服は、どこで誰がどのように作ったものなのかご存じですか。知らない方が多いと思います。それを知る機会がないというのも、本日のテーマの1つです。

私たちの身の回りのものはすべて、自分で作らない限り、誰かが作ってくれて初めて使うことができます。でも、買うときにはそのことをあまり考えないと思います。だから買うときにそれを考えてみませんか？というのが本日のお話の一番の目的です。

### 「持続可能」って、どういうことでしょうか？

タイトルにもある「持続可能な」の意味について、買う人にとって、作る人にとって2つの方向からみていきたいと思えます。

買う人にとっては買い続けられることが持続可能なのか、作る人にとっては作り続けられることが持続可能なのか。買い続けるためには誰かが作り続ける必要があります。で

は、作り続けるためにはどうすればいいのでしょうか。ここに社会や環境の問題がかかわってきます。

なぜ私がこのようなお話をするのかですが、私が勤めるフェアトレードカンパニーは、「持続可能な消費」の解決策の1つであるフェアトレードを行う会社です。「ピープルツリー」というブランド名で衣料品、ファッション雑貨、生活雑貨、食品など幅広い商品をオリジナルで企画・販売しています。

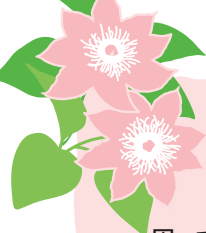
### 「フェアトレード」って、何でしょう？

「フェアトレード」という言葉を知っている日本人は人口の5割、正しく理解している人は3割といわれています。一般社団法人日本フェアトレード・フォーラムの調査によると、「フェアトレードと関係のある言葉はどれですか？」という質問に、株式、金融、貧困、環境、医療、メディア、スポーツのうち正しく「貧困」と「環境」を選べた人は3割でした。

また、フェアトレードについて最もよく知っている年代は10代でした。それは学校教育に取り入れられているからです。学校で習ったことを家で保護者の方にもっと詳しく聞こうとしても、残念ながら親が知らないためそこで話が終わってしまう、ということもあるようです。ただ、学校教育によって子どもから大人に広まっていききっかけにもなるため、とても大切なことだと思っています。

一方で、認知度が高い10代は、生まれたときからファストファッションが当たり前の世代です。それが問題といわれてもピンとこない、悪いといわれたら何を着たらいいのかわからない、と、まじめな学生さんほど悩んでしまうようです。

フェアトレードをごく簡単に定義すると、「貧困問題と環境問題をビジネスの仕組みの中で解決しようという活動」です。ここで大事なことは「ビジネス」であること。なぜかという、ボランティアや慈善活動は、できるときとできないときがあり、不安定です。支援を受ける側も不安定になり



困ってしまいます。一方、フェアトレードは企業の経済活動の中に組み込まれていることが大事なポイントです。ピープルツリーは、「おしゃれな服、かわいい雑貨、おいしい食べ物」といった日々の暮らしの中で楽しめるもの、幸せになれるものを提供することをモットーとしています。

## 通常の貿易の裏側にあるもの

### ラナプラザ崩壊事故

日々の生活の中で幸せになれる商品を買う。私たちにとっては当たり前のことでも、それを作る人の現実は大変に悲惨です。2013年4月24日、バングラデシュの首都ダッカで縫製工場が崩落し、1100名以上が死亡しました。このビル「ラナプラザ」は、もともと4階建ての建物に違法増築を繰り返し、8階建てにしていました。それだけでも危ういのですが、そこにミシンを大量に置き、縫うときの振動で壁にはヒビが入っていたそうです。崩落の前日、壁に大きな亀裂が見つかったので、翌朝従業員たちは建物の中に入らず抗議をしたのですが、工場主は、「それなら今月分の給料は払わない」と強制的に従業員を中に入れました。その結果、数千台のミシンが一斉に稼働し、振動によってビルは崩壊しました。この事故の原因は、従業員を強制的に働かせた工場主だけにあるのでしょうか。そうではないと思います。企業のオーナーや工場主に仕事を依頼し、「納期を守れ」と迫ったのは先進国にいる私たちです。この事故は途上国だけの問題ではなく、途上国に生産してもらい買っている側の問題でもあることを知っておく必要があります。

### 「ザ・トゥルー・コスト」

ラナプラザの事故は欧米で大きな反響を呼び、事故をきっかけに映画作品が作られました。誰が本当のコストを払っているのでしょうか。こんな安い洋服は巷にあふれているけれど、作っている人はそれで本当に生活できているのでしょうか。華やかなファッション産業の裏側にスポットを当て取材をしたドキュメンタリー映画です。

### 貧困の「負のスパイラル」

児童労働というと「子どもにお手伝いさせることも児童労働なのですか？」という質問がきますが、そうではありません。学校に行かせてもらえず、他の選択肢がない中で強制的に働かなければならない子どものことをいいます。

右の写真はインドの手工芸を作る子どもです。彼らは小さいときから働きづめで、学校にも行けないので、読み書き計算ができないまま大人になります。すると、大人になっても他の仕事には就けません。子どものほうが賃金が高い



ラナプラザの倒壊事故

### 誰が本当のコストを払っているの??



左上：この女性は工場から排出される汚染水が生活用水に入り込み、皮膚の色が抜け、内臓疾患の被害にも遭ってしまいました。

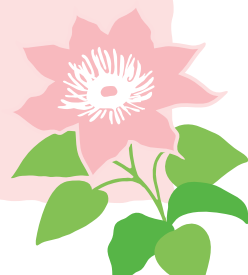
左下：このゴミの山はほとんど衣料です。リサイクルに出しても古着として活用されるのは1割ほどで、ほとんどはゴミとして廃棄されます。私たちの家の中はスッキリしても、その先にどうなるのかを考えないといけない、つまり、買うときに「本当に必要なのか」を考える必要があります。大量生産、大量消費、その結果、大量廃棄という現状のサイクルはとてままずい状況であると考えます。



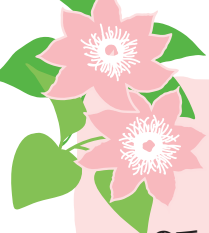
### 貧困の「負のスパイラル」

- 児童労働の温床
  - 読み・書き・計算ができないまま大人に
  - ほかの仕事に就けない
- 子どもを働かせないと食べていけない家族
- 大人の1/3の賃金で働かされる子どもたち

People Tree







ので、また子どもが働くこととなります。児童労働をしてきた子どもが親になると、子どもを働かせないと生活できないようになります。学校教育を受けてもらい「負のスパイラル」を断ち切ることが重要になります。

## フェアトレード・ファッションと一般的なファッションの違い

一般：利益を優先するため、値引き交渉をして下請けに安く作らせることがあります。大量生産により効率良く生産しています。支払は、少しでも自分たちの元にお金がある時間を延ばすためできるだけ遅くします。労働条件は過酷で、1週間のうち7日間、14~16時間労働を強いられることもあります。また、環境に配慮するとコストがかかるため後回し、というも当たり前になっています。

フェアトレード：利益より人を大事にしています。そのために継続的な関係性を築くことを大切にしています。支払は必要ならば前払いすることもあります。価格は話し合いで決定します。手仕事にかかる時間に配慮し十分な制作期間を設け、環境にも配慮します。

## フェアトレードのものづくり

ピープルツリーの商品は、それぞれの国や地方、民族の伝統的な手法を受け継ぎ、できるだけその地方で採れる天然素材を用いて手仕事で作られています。手仕事は味わい深い製品を生むだけでなく、経済的・社会的に不利な立場にある人々に、それぞれの能力を十分に活かせる仕事をもたらし、収入を得る機会をつくり出します。WFTO(世界フェアトレード機関)が定める「フェアトレード10の指針」を守り、フェアトレードを推進しています。

「10の指針」にあることは、「仕事の機会をつくる」「男女平等」「個人や団体の能力を伸ばす」「適正な金額を払う」など、当たり前のことばかりです。つまりフェアトレードとは、専門的で難しいことではなく、「当たり前のことをちゃんとやろう」という活動なのです。

例えば食の分野では、スーパーの野菜売場に「私が作りました」と生産者の写真付きの紹介があったりします。すると消費者は、この人が作っているのかと安心して買うことができたり、農家を応援する気持ちで少し値段が高くても買おうと思ったりします。作る人の顔が分かっているならば、その人を「騙してやろう」などとあまり思わないものです。しかし私たちは衣料品の多くを輸入に頼っており、どこからやってくるのか、誰が作っているのか知らないため、生産現場に無関心になりがちです。すべてのものは誰かが作っています。その「誰か」に思いを寄せてみる、それが大切なので



- 割増金による、地域コミュニティへの恩恵
- 健康的に働ける環境

People Tree

インド：オーガニックコットンを作る人たち  
オーガニックコットンを作ることで割増金が発生し、井戸や学校を作れるなど地域コミュニティへの恩恵につながります。農業を使わないため、健康的に働けて、作り続けられる環境づくりができます。



- 手仕事を活かす
  - 伝統技法の継承
  - 大資本による設備投資が不要
  - 電力をなるべく使わない

People Tree

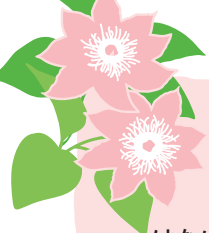
手仕事を活かす  
インフラ整備が整っていない地域も多いため電力をなるべく使わず、少ない資本でも仕事を始めることができること、農村地帯に現金収入を得る機会を作ること、伝統技法を継承し感性を活かした「作品」のようなものづくりが可能。



- 家族と一緒に住める
- 家事や育児の合間に働ける

People Tree

編み物をするお母さんたち  
家族と一緒に住み、育児をしながら働ける環境をつくっています。現地の人たちにとって幸せな生活が続けられるよう働き方を工夫するのもフェアトレードです。



はないかと思います。

ピープルツリーでは、職人さんたちに任せきりにするのではなく、日本で売れる商品を作るため国内で商品企画をし、スタッフがサポートしながら生産を行っています。とはいえ、一方的に「こういうものを作ってください」とお願いするのではなく、「こういうものが作りたいのですが」と相談し、職人さんから「こういうふうにすれば」とか「これを使えば」といったアイデアや提案をしていただきます。ものづくりの誇りを持って働いてもらうことが何よりも大切だと考えています。

### 大好きな洋服のことを考えてみてください

みなさんは、どんな服が、なぜ好きなのでしょう。なぜか捨てられない服はありませんか？

私は60～70年代の古着が好きと言いましたが、この頃の服はテキスタイルがとても凝っていて、例えばコートなどは生地も分厚くて、とても「ポイッ」と捨てられるものではありません。また大量生産されたものとは思えない、もしかしたらオーダーメイドで新婚旅行に着ていったなどの思い出の服なのでは？ と思えるようなものもあります。そういうもののご縁があったとき、自分の代で捨ててしまっているのか？ という気持ちになります。

ファストファッションが日本に入ってきてもう20年、安いことが当たり前になってしまっています。私の祖母は和裁士でしたので着物の「繰り直し」という言葉を使っていました。形を変えて染め直し、布が傷まない限りはどうかして着続ける、ものを大事にする気持ちが生きていました。作ってくれる人を大切に思い、その服と過ごす自分の生活を愛おしいと思う気持ち、それは自分を大事にするにつながるのでないかと思います。

### お買い物は、投票行為！

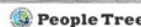
「買うときに“本当に必要か”を考えることが大切」と、公



• 職人技  
• 感性を生かした「作品」



誇りを持って働く



開業で女子生徒が発表しているのを聞いて感動しました。自分の部屋から要らない服が消えればそれでOKではないと申しましたが、そもそも入手するときに考えなければいけないことだったのです。

お買い物は投票行為です。投票というと、選挙です。選挙では、どんな社会をつくってくれるかに1票を投じています。お買い物をするので、ものやサービスを提供する会社に対して利益をもたらし、商品を作り続ける、サービスを提供し続けるための資金源になります。自分が好きなものを作り続けてもらえるように応援する、そのためにお金を使うと考えると、お買い物は日常生活で誰でも何度でもできる投票行為だと思います。

お金の使い方は、その人の価値観が表れる行為です。「とりあえず買った服」の存在を次のシーズンに忘れてしまうことってありませんか？ 衣替えの時に見つけて、「ああこんな服持ってたっけ」とやっと思ひ出すことがあります。存在も覚えていない服を5枚10枚持つよりも、あこがれていた1着を買うほうが幸せだと思うことがよくあります。買うときの値段だけで判断すると、それは結局自分に幸せをもたらすものなのか、分からなくなってしまいます。

買い物をするとき、価格以外の基準で考えられるようになるといいのではないのでしょうか。そのうちの1つが「作り手が誰で、どんなふうで作っているのか」であり、「素材」であり、「なぜこんなに安いのか、これを作っている人の生活は大丈夫なのか」だったりします。

### 「持続可能」の秘訣

分かりやすくチョコレートで考えてみます。

近年、カカオの収穫量が減ってきているそうです。なぜかというと、プランテーションにカカオの木を一斉に植えたのが今から60～70年前で、今まさにカカオの木の寿命を迎えているからです。生産量が落ちているのに、中国や





インドなど人口の多い国からの需要が増えてきた。豊かになることは素晴らしいことで、それを押しとどめる理由はありません。豊かになると高級嗜好品が好まれ需要が増えていきます。でも生産は減ってきている。そうなると、経済の働きでは希少なものに高い値がつき、作り手が潤うようになっていくはずなのですが、実際はそうなっていません。カカオの生産では食べていけないということで、現地ではカカオの木からゴムの木に植え替えるところもあります。

そのうち本物のおいしいチョコレートを食べられなくなる日が来るかもしれません。そうならないためには、生産者が本来のカカオ生産で生活できることが大事です。これはカカオだけの問題ではなく、日本の農家や漁師さんや、企業で働く人もそうで、本来の仕事できちんと生活できる収入を得られるように、お金を回していく必要があります。私たち買う側が賢くなることで、企業もそれに従わざるを得なくなります。

### まずは「自分が幸せであるか」

このとき大事なものは、「こうせねばならない」ではなく、「そうしたほうが幸せ」と思えることです。「未来のために！社会のために！」と思うと義務感が漂ってきてしまいますが、それでは続かないのではと思います。まず、自分が幸せであることが大事だと思います。買い物もそうで、欲し

い気持ちを抑えつけて「何も買ってはならない」というのは間違いだし、欲望のままに買って要らない服が増え、罪悪感を覚えるのも幸せではないと思います。そのためには、自分がどうなったときに幸せなのかをまず知ることが重要だと思います。自分の好みを知ること、流行ではなく自分の感覚を大事にすること、「とりあえず」をやめるなど。

「社会のために」「未来のために」「環境のために」と声高に言うと、今の言葉で「意識高い系」などと言われてしまうのではという恐れがあって、表に出せない子たちがいます。それはすごくもったいないと思います。「意識が高い」からやっているのではなく、「自分の幸せ」のために、おいしいチョコが食べたいから「カカオを作っている人にちゃんとお金がいくようにする」、そういうシンプルな理由でいいのではと思います。

ある人が、社会的な活動をする目的を尋ねられて「死ぬときに幸せでいたいから」と答えていました。「あの頃は良かったな(今は良くない)」と思いながら死ぬよりも、今このときに幸せを感じて死にたいと私も思います。そう思えるようになるには、今より未来はもっと良くなっている必要があるのです。「そのために今、自分ができていることをやっている」とその人は言っていました。

自分の幸せは、住んでいる場所や時代と無関係ではいられません。戦争中の国で個人の幸せを追求しようとしても難しいという現実があります。だから、自分が幸せであるためにも、社会のこと、未来のことを自然に考えるようになると思うんです。「やらなければいけないこと」「難しいこと」と思わず、自分がのびのびと、後ろめたくなく幸せでいられるためには何ができるのかを考えることが大事なのではないか思います。

私たちはものを通じて世界とつながっています。自分には遠いとか、自分1人がやってもどうにもならないと思ってしまったら、自分と世界の関係は途切れてしまいます。まずは自分の生活がどのように成り立っているのかを考えることから始めてみてはいかがでしょうか。

